

平成24年度学術ポータル担当者研修

2012.8.1(名古屋)

2012.8.22 (NII)

モデルサービスの企画意図と技術設計

山本哲也 (名古屋大学 情報連携統括本部 情報推進部)

■講師について

かつて職業プログラマーだったことがあります。顧客、または元請に提示された仕様をもとに製作を行うものですが、仕事をする上でよく感じる不満は、この仕様が不完全なことが多く、製作したものを作り直す羽目になることがままあったことです。顧客と直接対話ができるような案件の場合は、要求される仕様をより正確に聞き取るためのチャンスが得られるものですが、そのときでも、顧客が言葉で説明するものと、本当に求めているはずのものには違いがあることがあり、難しい仕事なのだなという実感をよく持ちました。

現在はむしろ昔と逆の立場であることが多く、こちらが述べた仕様で開発業者に依頼をします。そこで製作物を目にして初めて、こちらの指示が間違っていた、または不十分だったなど気づく部分があります。

つまり、依頼するほうとされるほうの立場から、システムの仕様というものを見つめる機会をもったこととなります。個人的な経験としては、現在問題があって解決すべきこと、または新しく提供したいものについてのストーリーがうまく伝わったときには、その後の連絡がスムーズになって、全体として開発がうまくいくことが多かったように記憶しています。

普段、説明に図やイラストを多用するクセがあるのは、こういう問題意識と関係があるのかも知れません。一目で伝わり、印象に残るものは強力です。ぜひ意識的に活用していただきたいと思います。

開発者として、こんなことを顧客から相談されるとどう答えようがあるか、ということについては、いくつかアドバイスできる点があるかも知れません。

■オープンコースウェアサービスについて

今回のモデルサービスとして挙げたものは、オープンコースウェアです。必ずしも既存のものにとらわれる必要はありません。インターネット上でよく見る、映像資料を扱ったサービス (YouTube、USTREAM、ニコニコ動画など) や、それから派生したサービスの内容を踏まえ、それらのアイデアを活用して何が作れるかを一緒に考えましょう。講師自身にここのサービスについての経験があまりありませんので、一緒に、というほかありません。

動画・音声を扱う YouTube やニコニコ動画等は、そのコンテンツ自身が一意の URL を持っていて、これを用いて他のサービスから様々な連携ができるようになっています。また、他のインターネット上のページに、動画などを埋め込んで見せるための簡単な方法も準備しています。この点をどう活用するか、というあたりが、考え始めの手がかりになるのではないのでしょうか。